O8-28

NHK テレビ番組で放映された霞ケ浦の環境問題

川村　志満子 [1], 福島　武彦 [2],松下　文経 [3]

[1] 筑波大学大学院生命環境科学研究科, [2] 茨城県霞ケ浦環境科学センター,[3] 筑波大学生命環境系

キーワード：湖沼環境問題, テレビ番組, 社会的関心,環境意識

抄録

本研究は NHK で放映したテレビ番組のうち日本の湖沼の環境問題を主題にした番組を調査し、その中から特に霞ケ浦の環境問題を主題にした番組の内容を分析したものである。霞ケ浦の環境問題が最初に放映されたのは 1973 年で、きっかけはその年に発生した魚の大量死とアオコの大発生だった。それ以降 1995 年まで数年おきに水質を取り上げた番組が放映され、その内容は漁業への影響、生活水への影響、環境問題への対応へ変化した。これらの対応は、世界の湖沼環境の持続的な改善と保全に対する提言として世界湖沼会議の関連番組(1995)で放映された。1995 年以降の番組は水質以外の問題を取り上げて環境問題の多様性を示唆した。番組には当時の霞ケ浦の状態や人びとの行動、意見が映像で残されていた。これらは貴重な資料であり時代や世代に通じた共通の情報である。今後の環境学習や人びとの環境意識啓発の参考になると考えられる。

1.　はじめに

霞ケ浦の水質改善のために周辺の人びとは長期的な努力を継続している。しかし、明確な水質の改善は見られない[1]。加えて近年は外来種の脅威や 3.11 後の放射性物質の残留など環境問題の多様化が報告されている[2]。NHK(Nippon Hosou Kyokai)では 1960 年代から湖沼の環境問題に関するテレビ番組が作成され、その中で霞ケ浦の環境問題も取り上げられた。映像には当時の霞ケ浦の状態や人びとの様子が残されていた。霞ケ浦の環境問題は、これまでも先行研究 [3]や新聞記事[4]で公表されたがテレビ番組で放映した内容の分析例はない。マス・メディアの発する情報は、社会情勢に従い時代とともに変化する。そのため同じ話題は持続性に欠けるという特徴があるが、発せられた過去の現象や人びとの対応の事実がその都度関連付けられて、人びとがその事実に基づいて考え、行動できるようになるという役割もある[5]。本研究は番組の内容を用いて過去からの霞ケ浦の環境問題の内容と人びとの対応を調べた。それらから霞ケ浦の環境問題の変化を分析した。そして霞ケ浦への一般的な関心と人びととの関わりを考察した。

2.　方法

本研究は「NHK アーカイブス学術利用トライアル研究」（以下、トライアル研究）を利用した研究である[6]。NHK アーカイブス（以下、アーカイブス）は、NHK に保管されたすべての放送資料を学術振興のために提供する試みで 2010 年から開始された。この放送資料のうち、湖沼に関するテレビ番組（以下、番組）を調査し、特に霞ケ浦の環境問題を主題にした番組の内容を分析対象とした。

研究方法を以下にまとめる。(1)番組はアーカイブスの検索機能を使用して検索した。アーカイブスの検索機能において、キーワードが番組名、番組紹介内容、番組副題に含む番組が検索される。検索キーワードは湖とした。検索期間は 2015 年 12 月までとした。これは本研究のアーカイブス閲覧期間が 2016 年 6 月から 8 月だったためである。(2) 検索結果には同じ番組の再放送が含まれていたが再放送は対象としなかった。よって、同じ番組の中で一番早い放送日時のものを対象とした。(3) 選出した番組を視聴して、番組内容、インタビュー、ナレーションのメモを取った。(4) 番組内容から霞ケ浦の水環境または環境問題を主題にした番組を選出した。

3.　結果

図 1 に日本の湖沼に関する番組数、その中で湖沼環境問題を主題にした番組数をまとめて年代別に示した。湖沼に関する番組または湖沼環境問題に関する番組は、1970 年代から 1990 年代にかけて増加し、2000 年代以降は減少した。湖沼に関する番組のうち湖沼環境問題に関する番組の割合は、1990 年代が最も多かった。初めて湖沼環境問題を主題にした番組が出現したのは 1969 年 11 月、番組名は「ある湖の物語」(1969)で諏訪湖の富栄養化を主題にした内容だった。また、番組の対象になった湖は、琵琶湖(滋賀県) 約 43%、霞ケ浦

(茨城県) 約 11%、諏訪湖 (長野県)、猪苗代湖 (福島県)、宍道湖と中海(ともに島根県) 約 0.3%などだった。

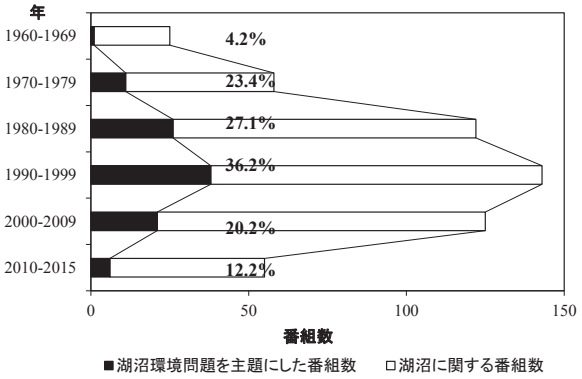

図 1 湖沼に関する番組数と湖沼環境問題を主題にした番組数:グラフ内の数値(%)は湖沼環境問題を主題にした番組が占める割合を示す(川村, 2017[7]をもとに作成)

表 1 に霞ケ浦の環境問題を主題にした番組の一覧を示した。霞ケ浦に関する番組が初めて出現したのは 1973 年の「明るい農村 村の記録」だった。副題は「アオコの湖～霞ケ浦の1年～」である。番組の冒頭では、この年の夏におこった魚の大量死とアオコ大発生の映像ときれいな霞ケ浦を取り戻そうと書かれたビラを土浦駅前で配布する漁業関係者の映像があった。漁業関係者は、魚の大量死とアオコ大発生の原因は水門を閉鎖したことによる湖沼の環境変化だと主張して水門開放を行政に求めた。しかし、行政はその主張を受け入れず両者は対立した。ナレーションでは、霞ケ浦が淡水化された経緯が説明され、淡水化後の漁業の変貌が漁民へのインタビューで語られた。そして、ナレーションで霞ケ浦は死の湖になったと語られた。漁業関係者と行政との対立は膠着状態のまま番組は終了した。

それ以降の番組の概要を以下にまとめる。番組は副題で示す。「大都市圏の水資源」(1975)では、飲み水の悪臭を取り上げ、霞ケ浦と琵琶湖周辺の住民がやかんに炭を入れるなど活性炭で水道水をろ過する様子が放映された。「茨城県霞ケ浦 昭和38年」(1981)では「アオコの湖」(1973)のその後が取り上げられた。ゲストで漁業関係者をスタジオに招き、インタビューにより霞ケ浦の現状を紹介した。この時期には漁業関係者と行政との和解が成立していた。しかし、霞ケ浦の水質は変わらず、水門も閉鎖中という現状だった。ゲストへのインタビューでは霞ケ浦を淡水化した当時は水質のことは誰も考えなかった、という発言があった。この番組のナレーションでもかつての霞ケ浦の環境は戻らないと語られた。「リポート'82」(1982)、「湖・再生への道」、「霞ケ浦」(ともに1984)、「リポート くらし」(1990)、「水草が消えていく」、「湖は今」(ともに 1995)では、飲み水の悪臭、アオコの発生、死んだ魚など水質悪化による霞ケ浦の現状状態を放映したが漁業関係者よりも周辺住民の生活が取り上げられた。特に「リポート'82」(1982)からは、環境問題へ対応する周辺住民の様子が取り上げられた。一部をあげると行政による条例の制定、ビオトープ設備の設置、住民による家庭油流出の制御運動や定期的な水質測定調査、大学や研究所による環境モニタリングなどである。「水草が消えていく」(1995)のナレーションでは、霞ケ浦は死の湖といわれても再生しようとしている、と語られた。

表 1 霞ケ浦の環境問題を主題にした番組:○は番組名、●は副題

放送年月日	○番組名 ●副 題	放送時間 (分:秒)
1973 年 12 月 17 日	○明るい農村 村の記録 ●アオコの湖 ～霞ヶ浦の1年～	024:30
1975 年 7 月 5 日	○教養特集 ●「大都市圏の水資源」 ―霞ケ浦・びわ湖開発の周辺―	060:00
1981 年 10 月 13 日	○ふるさとの証言 ●茨城県霞ヶ浦 昭和38年	030:00
1982 年 2 月 17 日	○明るい農村 ●リポート'82 「霞ヶ浦条例と農業」 茨城県出島村ほか	024:00
1984 年 8 月 26 日	○視点 ●湖・再生への道(霞ケ浦)	025:00
1984 年 11 月 2 日	○日本新地図 ●霞ケ浦 ～汚染と環境保護～	020:00
1990 年 8 月 28 日	○イブニングネットワーク ●リポートくらし 水をきれいにせよ ～霞ヶ浦水質浄化作戦～	010:00
1995 年 8 月 28 日	○いのち輝け地球 ●水草が消えていく(霞ケ浦)	020:00
1995 年 9 月 18 日	○こんにちは いっと6けん ●湖は今・霞ケ浦ほか	記載なし
1995 年 10 月 23 日	○ETV特集 ●霞ケ浦はよみがえるか 第1回 汚染報告 湖は何を失ったか	045:00
1995 年 10 月 24 日	○ETV特集 ●霞ケ浦はよみがえるか 第2回 対策報告 私たちに何ができるか	045:00
2002 年 10 月 8 日	○ETV2002 ●NPOの時代 湖よ よみがえれ ～アサザ・プロジェクトの挑戦～	044:00
2004 年 1 月 30 日	○10min. ボックス ●湖沼と酸性雨 (霞ケ浦)	010:00

「霞ケ浦はよみがえるか」(1995) は、1995 年に霞ケ浦周辺で開催された第 6 回世界湖沼会議の特集番組だった。この番組では、第1回・汚染報告と第2回・対策報告として環境問題の現状と対応について有識者と市民代表などがスタジオで議論した。そして、人びとの環境意識啓発の重要性を訴え、霞ケ浦の環境問題への対応は世界の湖沼環境問題への提言として番組で発表された。「NPO の時代」(2002)では水生植物・アサザの復

活への取組み、「湖沼と酸性雨」(2004) では酸性雨が主題だった。

4. 考察

4.1 霞ケ浦の環境問題の変化

最初に、番組が作成された背景について考察する。「アオコの湖」(1973)では魚の大量死の映像と同時に駅でビラをまく漁業関係者が映された。魚が大量死して壊滅的な打撃を受けた漁業関係者の訴えが背景となり、これらの訴えや漁業関係者と行政との対立が社会的関心を触発したと考えられる。しかし、漁業が注目されたのはこの番組と「茨城県霞ケ浦 昭和38年」(1981)の 2つの番組で、他の番組では周辺住民の生活が取り上げられていた。この背景は、霞ケ浦の湖水が生活水、特に飲料水で使用されており、水質が広い地域に影響を与えたためと考えられる。「大都市圏の水資源」(1975)では霞ケ浦と琵琶湖周辺での水道水の汚臭を取り上げており、これらの背景から水道水の安全性、すなわち湖沼環境の安全性に社会的関心が向けられたと考えられる。次に、霞ケ浦の環境問題の主題については、結果から1995 年ころまで水質が注目されたといえ、それ以降は水質以外の問題への移行が示唆された。その内容は、漁業への影響、生活水への影響、環境問題への対応と変化していた。これらの背景には、湖沼の水資源的価値に向けられた社会的関心が、発生した事象へと焦点を変化させたことが考えられる。番組の減少が社会的関心の減少とはいえないが、今後は環境問題の多様化とともに社会的関心の焦点も多様化していくと考えられ、環境問題の解決には焦点の大小に関係なく人びとの環境意識を啓発する努力が必要と考えられる。

4.2 霞ケ浦の環境問題と人びととの関わり

「アオコの湖」(1973)、「茨城県霞ケ浦 昭和38年」(1981)では漁業関係者と霞ケ浦との関わりが放映された。漁業関係者は淡水化される以前から霞ケ浦で漁業を営んで生活をしてきた人びとである。人が霞ケ浦から受ける恩恵の原点といえるかもしれない。水質悪化による漁業の衰退は古来の霞ケ浦の環境消失を示唆し、ナレーションでも霞ケ浦は死の湖と決定づけられていた。その後、漁業関係者と行政との和ぼくが成立したが、漁業にかつての隆盛が戻るには至らなかった。「リポート'82」(1982)以降の番組では霞ケ浦の湖水を生活水で使用する人びとが取り上げられ、霞ケ浦と人びととの関わりは漁業関係者から住民へ移行した。水質改善に取組む霞ケ浦周辺の住民、行政、研究所の人びとの様子が取り上げられ、官民産学が協力して環境問題に取り組む態度や行動が取り上げられた。そして「霞ケ浦はよみがえるか」(1995)では官民産学の代表者がスタジオに集合した。これらから、霞ケ浦と関わる人びとは漁業関係者、周辺の住民、行政や研究所などの専門機関、最後は世界の人びとへと変化したといえる。これは、霞ケ浦の環境問題が霞ケ浦湖内から周辺地域、そして世界へと拡大していく様子を示唆している。こうして最初は死の湖と言われた霞ケ浦は再生に挑み、世界の湖沼環境へ提言を発信するまでになった。過去に行われた水質改善への取組みには、現在も継続するもの、すでに終了したものとあるが、近年は環境問題への対応として小学校の環境学習の義務化など新しい取組みが開始されている。多様な人びとの協力を得ることは、霞ケ浦だけでなく世界の湖沼環境問題解決への持続的な努力へつながると考えられる。

5. 結論

本研究は NHK で放映したテレビ番組の中で霞ケ浦の環境問題を主題にした番組の内容を分析したものである。その結果、1973 年に初めて霞ケ浦の水質悪化の様子が放映され、霞ケ浦では 1995 年頃まで水質が最も注目されていた環境問題とわかった。また、内容は漁業への影響、生活水への影響、環境問題への対応と変化し、それぞれに霞ケ浦と関わる人びとも変化した。変化の背景には湖沼への社会的関心があると考えられ、近年多様化する霞ケ浦の環境問題の解決には、人びとの環境意識の啓発と多様な人びとの協力を得るための努力の継続が必要と考えられる。これらの番組は多様な人びとが共有できる情報のひとつである。

引用文献

[1] 環境省: 平成 28 年度公共用水域水質測定結果, http://www.env.go.jp/water/suiiki/index.html,Cited 15 April 2018.

[2] Fukushima T, Arai H: Radiocesium contamination of lake sediments and fish following the Fukushima nuclear accident and their partition coefficient. Inland Waters, 4, PP. 204-214, 2014.

[3] 鳥越皓之:『霞ケ浦の環境と水辺の暮らしーパートナーシップ的発展論の可能性』,早稲田大学出版部, 260, 2010.

[4] 常陽新聞社:『霞ケ浦報道 1951～1999』(上下巻),常陽新聞社, 2000.

[5] Lippmann W : Public Opinion, Transaction Publishers, US, 1964.

[6] NHK アーカイブス: 学術研究トライアル, http://www.nhk.or.jp/archives/academic/, Cited 15 April 2018.

[7] 川村志満子,福島武彦: NHK テレビ番組で放映された湖沼に関する内容の分析,水資源・環境研究, Vol. 30, pp. 73-77, 2017.